

## 平成22年4月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年3月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アスカネット

コード番号 2438 URL <http://www.asukanet.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO

(氏名) 福田 幸雄

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO

(氏名) 功野 顕也

TEL 082-850-1200

四半期報告書提出予定日 平成22年3月15日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年4月期第3四半期の業績(平成21年5月1日～平成22年1月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年4月期第3四半期	3,383	0.4	494	20.2	490	19.5	278	18.0
21年4月期第3四半期	3,371	—	411	—	410	—	236	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年4月期第3四半期	6,520.58	—
21年4月期第3四半期	5,482.01	—

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年4月期第3四半期	2,974	2,328	77.9	54,180.85
21年4月期	2,872	2,125	73.6	49,419.89

(参考) 自己資本 22年4月期第3四半期 2,317百万円 21年4月期 2,114百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年4月期	—	0.00	—	1,750.00	1,750.00
22年4月期	—	0.00	—	—	—
22年4月期 (予想)	—	—	—	1,750.00	1,750.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年4月期の業績予想(平成21年5月1日～平成22年4月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,825	7.1	577	5.1	575	5.2	327	8.1	7,631.92

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

##### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

〔(注)詳細は、4ページ【定性情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。〕

##### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

##### (3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年4月期第3四半期	43,660株	21年4月期	43,660株
② 期末自己株式数	22年4月期第3四半期	878株	21年4月期	878株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年4月期第3四半期	42,782株	21年4月期第3四半期	43,132株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日時点において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因によって、予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、4ページ【定性情報・財務諸表等】3.業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## ・ 定性的情報・財務諸表等

## 1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における我が国経済は、一部企業業績に底打ち感がありますものの、雇用、所得環境が改善されない中、実体経済の低迷が継続しており、依然として厳しい状況が継続しております。

当社を取り巻く環境におきましても、当社が提案してまいりました個人が1冊から注文できる写真集作成サービスが「フォトブック」として認知が進んでおりますものの、景気状況の低迷により、消費マインドが抑制されており、業務向けの写真市場や葬祭市場、一般消費者市場のいずれにおきましても、厳しい環境が継続しております。

このような状況の中、当社はフューネラル(葬祭)市場に対する遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力を主体としたメモリアルデザインサービス事業と、デジタル写真とオンデマンド印刷の融合を目指し、一般消費者からプロフェッショナル写真家までをターゲットに個人向け写真集の作成、販売を主体としたパーソナルパブリッシングサービス事業を中心として一つ一つカスタマイズされたモノ創りにこだわって展開してまいりました。

事業の概況を示すと次のとおりであります。

メモリアルデザインサービス事業におきましては、引き続き画像処理の高い技術力や充実した自社サポート体制を強調した顧客開拓を進め、新規顧客を獲得するとともに、動画を用いた葬儀演出ツールやカラー額などの販売に力を注いでまいりました。その結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,381,026千円(前年同四半期比104.3%)となりました。

パーソナルパブリッシングサービス事業におきましては、自社営業による新規顧客開拓や、インターネットを中心とした広告宣伝の実施により業務拡大を図ってまいりました。9月にはプロフェッショナル写真家向けコンベンションを開催し、知名度の向上を図りました。安定した受注をいただいておりますものの、厳しい経済情勢を背景に、海外市場および国内一般消費者市場は伸び悩みました。その結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,002,041千円(前年同四半期比97.8%)となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は3,383,068千円(前年同四半期比100.4%)となり、費用面におきましては、パーソナルパブリッシングサービス事業においてコンベンションの実施による広告宣伝費を計上した一方、海外関連の販売手数料等販売経費や製造設備関連の減価償却費の減少、前期発生した移転関連経費の剥落、また効率的な生産体制、業務運営の推進による各種費用の抑制により、経常利益は490,550千円(前年同四半期比119.5%)、四半期純利益は278,963千円(前年同四半期比118.0%)となりました。

各事業別の売上は、次のとおりであります。

事業	前第3四半期累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成21年1月31日)		当第3四半期累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成22年1月31日)		対前年 増減率 (%)	前事業年度 (自 平成20年5月1日 至 平成21年4月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)		金額(百万円)	構成比(%)
メモリアルデザインサービス事業	1,323	39.3	1,381	40.8	4.3	1,781	39.5
パーソナルパブリッシングサービス事業	2,047	60.7	2,002	59.2	△2.2	2,724	60.5
合計	3,371	100.0	3,383	100.0	0.4	4,505	100.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2. 財政状態に関する定性的情報

## (1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ102,400千円増加し、2,974,441千円となりました。これは主に、現金及び預金、売掛金等流動資産が123,863千円増加したことによるものであります。当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ101,283千円減少し645,689千円となりました。これは主に、賞与引当金が46,400千円減少し、長期借入金が59,247千円減少したことによるものであります。当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ203,683千円増加し2,328,752千円となりました。これは主に、利益の計上により利益剰余金が204,094千円増加したことによるものであります。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度に比べ57,554千円増加し、563,076千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において営業活動の結果獲得した資金は、412,044千円(前年同四半期は117,100千円の獲得)となりました。主な収入要因は、税引前四半期純利益483,463千円、減価償却費241,670千円であり、一方主な支出要因は、賞与引当金の減少46,400千円、売上債権の増加54,351千円、法人税等の支払額197,067千円であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、220,372千円(前年同四半期は539,390千円の使用)となりました。主な支出要因は、有形固定資産の取得159,782千円、無形固定資産の取得55,041千円であります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は、134,102千円(前年同四半期は50,889千円の獲得)となりました。支出要因は、長期借入金返済59,247千円、配当金の支払額74,855千円であります。

## 3. 業績予想に関する定性的情報

当社は、一つという最少ロットから一人一人のためにカスタマイズされたサービスを提供するという時代に即したビジネスを展開し、安定した需要の取り込みを目指してまいります。メモリアルデザインサービス事業、パーソナルパブリッシングサービス事業とも、収益の安定的成長と適切な利益獲得を至上命題とし、高付加価値サービスの提供に努めてまいります。

両事業とも、十分に成長可能な市場を抱えており、それぞれの営業施策により、顧客の獲得やサービスの浸透による売上増加が見込まれます。特にパーソナルパブリッシングサービス事業においては、ご注文いただいた方からの高い評価を得ており、多くのリピートオーダーを頂いております。また高品質で多品種のサービスを安定供給できる体制が完備したとともに、写真のアウトプット市場という大きな市場を有しておりますので、サービス知名度向上により大きな事業拡大が可能であると認識しております。

当第3四半期は厳しい経済環境の影響を受けており、売上はパーソナルパブリッシングサービス事業を中心に当初の予想を下回ったものの、利益におきましては、粗利率の維持、向上を図るとともに、製造経費や一般管理費の抑制に努め、広告宣伝費、販売促進費につきましても、吟味して支出してまいりました。また、海外関連の販売手数料等販売経費も減少したため、予想を上回って推移しております。しかし、今後も引き続き、経済状況は厳しいまま推移するものと見込まれますので、現時点において通期の業績予想に関しましては変更はありません。

なお、特にパーソナルパブリッシングサービス事業は、これまでにない事業ですので、海外市場や一般消費者市場を含む各種案件につきましても不確定な要素を含んでおります。また、海外市場向け売上は外貨建てでの決済であり、為替相場の変動の影響を受けます。海外、国内とも景況が悪化しており、当社もその影響を受ける可能性があります。

## 4. その他

### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期財務諸表】  
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年1月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	563,076	505,521
受取手形及び売掛金	549,548	495,197
有価証券	—	1,766
商品及び製品	58,751	59,027
仕掛品	11,911	12,973
原材料	48,416	37,470
その他	82,836	76,771
貸倒引当金	△8,920	△6,972
流動資産合計	1,305,620	1,181,756
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	515,820	539,702
機械及び装置(純額)	280,583	279,853
土地	370,758	370,758
その他(純額)	97,552	113,293
有形固定資産合計	1,264,715	1,303,607
無形固定資産	231,254	220,922
投資その他の資産	172,851	165,755
固定資産合計	1,668,821	1,690,284
資産合計	2,974,441	2,872,041
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	79,628	89,418
未払法人税等	94,009	83,370
賞与引当金	49,700	96,100
その他	243,677	238,211
流動負債合計	467,015	507,099
固定負債		
長期借入金	166,500	225,747
退職給付引当金	12,173	14,126
固定負債合計	178,673	239,873
負債合計	645,689	746,972

(単位:千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年1月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	1,296,974	1,092,879
自己株式	△74,644	△74,644
株主資本合計	2,319,215	2,115,120
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,250	△839
評価・換算差額等合計	△1,250	△839
新株予約権	10,787	10,787
純資産合計	2,328,752	2,125,068
負債純資産合計	2,974,441	2,872,041

(2) 【四半期損益計算書】  
【第3四半期累計期間】

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
売上高	3,371,058	3,383,068
売上原価	1,658,440	1,639,160
売上総利益	1,712,617	1,743,907
販売費及び一般管理費	1,301,139	1,249,318
営業利益	411,478	494,589
営業外収益		
受取利息	720	217
受取配当金	725	625
受取手数料	820	741
その他	1,100	999
営業外収益合計	3,365	2,583
営業外費用		
支払利息	3,469	3,294
為替差損	—	3,317
その他	639	10
営業外費用合計	4,109	6,622
経常利益	410,735	490,550
特別損失		
固定資産除却損	65	7,086
特別損失合計	65	7,086
税引前四半期純利益	410,669	483,463
法人税等	174,219	204,500
四半期純利益	236,449	278,963

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	410,669	483,463
減価償却費	260,615	241,670
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,262	1,944
賞与引当金の増減額(△は減少)	△31,500	△46,400
退職給付引当金の増減額(△は減少)	383	△1,953
受取利息及び受取配当金	△1,445	△842
支払利息	3,469	3,294
為替差損益(△は益)	1,206	14
固定資産除却損	65	7,086
売上債権の増減額(△は増加)	△100,586	△54,351
たな卸資産の増減額(△は増加)	△15,656	△9,607
仕入債務の増減額(△は減少)	19,229	△9,789
未払消費税等の増減額(△は減少)	△16,669	6,489
その他	△21,727	△9,577
小計	509,315	611,443
利息及び配当金の受取額	1,441	840
利息の支払額	△3,401	△3,172
法人税等の支払額	△390,255	△197,067
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,100	412,044
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△391,486	△159,782
無形固定資産の取得による支出	△139,516	△55,041
貸付けによる支出	△5,000	△3,450
貸付金の回収による収入	330	1,490
その他	△3,717	△3,588
投資活動によるキャッシュ・フロー	△539,390	△220,372
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	200,000	—
長期借入金の返済による支出	△52,547	△59,247
配当金の支払額	△72,694	△74,855
自己株式の取得による支出	△23,869	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	50,889	△134,102
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,206	△14
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△372,607	57,554
現金及び現金同等物の期首残高	598,916	505,521
現金及び現金同等物の四半期末残高	226,309	563,076



(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。